

令和5年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立日野小学校

佐世保市日野町1308番地



校長 木原 健一 児童数564名 学級数21学級

特色ある学校づくりのテーマ

**自分の考えや思いを豊かに表現し、
高め合う児童の育成**

「夢」「笑顔」「元気」を引き出すための特色ある学校づくり

- (1) 学力調査をもとにした一人一人に応じたきめ細かな指導の充実
- (2) 言語活動を充実させて、自分の思いを表現させることを通した学力の底上げ
- (3) 地域体験活動を通した郷土愛の育成
- (4) 地域の方々を通しての開かれた学校づくりの推進
- (5) 環境教育、福祉教育、平和教育、ふるさと教育を通した豊かな心を育む教育の実践

地域の「人」「自然」「もの」

第1学年 「ふるさと教育」 昔遊び交流会

- 1年生の児童は、生活科「むかしからの あそびをたのしもう」の学習で、昔遊びに親しんだ。地域のお年寄りや保護者から遊び方などを教えてもらうために「むかしあそび交流会」を12月に実施した。交流会には、およそ50名の地域の方が参加してくださり、あやとり・おはじき・お手玉・羽根つき・かるた・だるま落とし・竹とんぼ・けん玉の遊びで交流を深めることが出来た。子供たちは、遊び方を教わったり、自分の得意な技を見てもらったりして、楽しく過ごすことができた。地域の方に、優しく教えてもらいながら、できるようになるまで暖かく励ましてもらったことで自信をつけるなど、素晴らしいふれあい体験ができた。
- 1年間いろいろ教わってお世話になった6年生に、感謝とお祝いの気持ちをこめて、自分の植木鉢にビオラを植える栽培活動に取り組んだ。6年生の卒業式に、花道を飾ることが出来た。

カルタとり交流



けん玉交流

第2学年 「大すき！日野」 ～地域と共に育つ日野っ子～

1 町探検

地域のお店や公共機関を見学し、調べたことを発表する機会を設けた。見学では学年を縦断して6班に分かれ、児童の関心に沿ってインタビューを行った。

パトカーの実物の見学、お菓子のサンプルなど様々なおもてなしをしていただくなかで、地域で暮らす方々の児童に対する思いや願いを感じることができた。また、幼稚園見学をすることで、自分たちがたくさんのお情を受けて育ってきたことへも思いを寄せることができた。

その後、6月の授業参観で調べたことの発表を行った。保護者から児童への「今度、一緒に行こうね。」などの声かけが聞かれ、親子で「日野の町」への思いを深める様子が見ええた。○ その後、各学級に分かれ、2月16日の授業参観で調べたことの発表を行った。発表は新聞・クイズ・ペープサート・寸劇等、多様な形式で行った。保護者からも「あのお店に2階があるなんて知りませんでした」等、楽しみながら参観していただくことができた。

2 おいもを育てよう

地域の方の畑を借りて、芋さしと芋ほりを実施した。

土をさわることや虫への抵抗をもつ児童もいたが、友達と活動するうちに自然と平気となっていった。自分の手で芋をほった時の喜びは大きく、野菜を育てる意欲の高まりに結びついた。

その後、親子レクリエーションとして「お芋パーティー」を行った。「育てる・調理・食す」活動を通して命のつながりについて考えを深めることができた。また、畑をかしてくださった方へお礼の手紙を書いたり、収穫した芋や調理した芋料理をプレゼントしたりする行為を通して、地域の方とのつながりを深めることができた。



お芋パーティーの様子

第3学年 「環境教育・ふるさと教育」 ふしぎ発見九十九島！

- 3年生は、環境教育の一環として九十九島の自然について調べ学習を進めた。海きらら水族館とビジターセンターの協力を得て、水族館見学を3回、長尾半島ウォークラリーを1回行った。
海の生き物についてのレクチャーを受けたり、水族館の見学をしたりする中で個人のテーマをもった。そのテーマについて、水族館でさらに詳しく観察したり、タブレットで写真や動画をとったり、書籍やインターネットを利用したりして調べを進めた。
はじめは、絵日記のように、楽しい見学のことを記録していたが、だんだんとメモの取り方も上達し、たくさん情報を集められるようになってきた。
- 12月から、調べたことをまとめる学習に入った。発表原稿を書き、それに合わせた写真などを集め、タブレット端末（クロムブック）を活用してスライドを作った。初めての経験で、子どもたちのパソコンスキルからすると、かなり難しい作業だったのだが、お互いに教え合ったりしながら少しずつ上達していった。
- 2月、最後の参観日に、1人ずつ教室のテレビにスライドを映しながら調べたことを発表した。原稿をしっかり覚え、タブレットを操作しながら相手を見て立派に発表できる子どもが多く、自信につながったようである。

海きらら水族館見学



長尾半島ウォークラリー

第4学年 「平和教育」 平和 ～長崎原爆について調べよう～

- 4年生では、平和学習の一環として戦争や平和について学習を進め、「長崎県民祈りの日（8月9日）」に合わせて、スライド発表を行った。各学級で6～7班に分かれ、それぞれのテーマに沿って調べたことを「スライドショー」形式で発表するものである。
事前に各班で発表したいテーマを決め、タブレット端末（クロムブック）を活用して調べ学習を行った。その後、調べた内容をスライドショーにまとめ、原稿を作成し、何度も発表練習に取り組んだ。
 - 各班は8月9日の全校での平和集会（放送集会）後に、1～3年、5年6年の各担当教室に赴き、準備・練習してきたスライド発表に取り組んだ。発表にはそれぞれの役割があり、班の発表が上手いくように、一人一人が真剣に取り組むことができた。
- また、普段はあまり交流のない他学年児童の前での発表ということもあり、緊張感もあったが、よい経験・発表ができたものと思う。なお、ICT活用力には大きな個人差もあるため、互いが助け合う中で、相手を尊重したり、思いやり合ったりする良い成果も見られた。



当日の「戦争と平和」についての発表の様子

第5学年 「福祉教育」～共に生きる～

- 5年生は、社会福祉協議会の協力を得て福祉教育を中心に学習を進めてきた。「車いす体験」・「アイマスク体験」・「高齢者疑似体験」を通して、介助する側とされる側の立場を体験し、福祉に対する理解を深めた。学習後、それぞれが興味をもった内容で調べ学習を行い、学級内で共有することで更に広い範囲の知識を得ることができた。学習後の児童の感想には「相手が不安にならないような介助ができるように、明るい挨拶から始めたい。」や「困っている人に気づき、言葉をかけられる人になりたい」などの意見が多く見られたことから、知識だけではなく、心情も確実に成長していることが分かった。
- 視覚障がい者の牟田口さん、聴覚障がい者の岡本さんの講演では、障害をもった方の生き方や考え方など生の声を聞くことができ、障がいをもった方と共に生きることへの理解が進んだ。
- 12月に行われた人権集会では、これまでの取り組みの紹介をする機会ができたので、各学年に合ったテーマを班で考え、タブレットで発表資料を作成し活動報告を行った。「相手に伝えるにはどうすればよいのか。」をみんなで考えながら、意欲的に参加することができた。福祉教育で学んだことを、全校へと広げることができた。

車いす体験の様子



視覚障がい者牟田口さんの講演



第6学年 「環境教育」 未来を守る ～私たちのSDGs～ 他

- 6年生は、「SDGs」について取り上げ、社会の一員として何ができるか考えさせて、PDCAサイクルの中で探究させた。
まずは、17の課題について知るために、動画やすごろくを使って知識を深めた。今、社会で起きている問題は日常生活と大きく結びついていることを知り、より探求したい課題を決め、夏休み期間中の自由研究として取り組ませた。2学期、これまでの自分達の計画や活動をふり振り返り、取組の成果と課題を考え、報告書を作成した。報告会后、これからの継続的な取組を考え活動のまとめとした。この学習を通して、探究の流れや協働的な姿勢、ICTの活用など、様々な力を身につけることができた。
- 「どんぐり人形」作りを事前に体験し、1年生「生活科」の秋の自然物を使った工作の指導者として丁寧に教えた。これ以外にも継続的な関係を持つことができたので、6年生としての責任感が育った。

どんぐり人形を1年生に教える6年生



すごろくゲームをする6年生

